

大正十三年五月十五日印刷
大正十三年五月三十一日發行

ラフプロントの學基礎



著者 吉良信之

發行者 木村延松
東京府巢鴨町三丁目十七番地

印刷者 宮尾彌三郎
東京府西巢鴨町向原二九九七

印刷所 宮尾印刷所
東京府西巢鴨町向原二九九七

定價金參圓八拾錢

發行所

東京府巢鴨町
三丁目十七番地
振替東京四〇二二三番

天地書房

最新の教育書

東京帝國大學文學部助教授文學士入澤宗壽著
新教育法講話
定價二圓五十錢
送料十八錢

吉良信之著
ダルトンの學的基礎と最近の經驗
定價三圓八十錢
送料十九錢

東京女子高等師範學校教官澁谷義夫著
學習參考
決戰の日本歴史(全七冊)
定價各一圓廿錢
送料十二錢

王朝の卷
源平の卷上
源平の卷下
鎌倉の卷
吉野の卷
戰國の卷
秀吉家康の卷

東京女子高等師範學校教官中野八十八著
思想回轉機に於ける
新國史教育
定價貳圓八拾錢
送料拾八錢

東京女子高等師範學校教官中野八十八著
新國史 至難の究明と躍動
定價參圓五拾錢
送料拾八錢

東京女子高等師範學校教官澁谷義夫著
思想回轉機に於ける
修身教授の基調
定價四圓五拾錢
送料貳拾參錢

吉良信之著
新思潮の生める
教育教授の施設と經營
定價貳圓八拾錢
送料拾八錢

天 地 書 房 發 行

最新の教育書

東京女子高等師範學校教官中野八十八著
思想回轉機に於ける
新國史教育
定價貳圓八拾錢
送料拾八錢

東京女子高等師範學校教官中野八十八著
新國史 至難の究明と躍動
定價參圓五拾錢
送料拾八錢

東京女子高等師範學校教官澁谷義夫著
思想回轉機に於ける
修身教授の基調
定價四圓五拾錢
送料貳拾參錢

吉良信之著
新思潮の生める
教育教授の施設と經營
定價貳圓八拾錢
送料拾八錢

天 地 書 房 發 行

學界最新權威

文學博士鈴木宗忠著
社會哲學の諸問題

菊列箱入
*プリン美裝
定價三圓
送料十八錢

社會哲學は我國に於ては最近に起れるもの、隨て斯學に關する著書は本邦あるのみ、而かも本書は斯學の權威たる著者の蘊蓄を遺憾なく發表せられたるもの也。

文學博士長井眞琴著
根本佛典の研究

菊列箱入
*プリン美裝
定價三圓八十錢
送料二十三錢

巴利佛敎の専門家たる著者の専ら律敎を中心とした研究なり。原始佛敎の全體を見んとするものは先づ律敎の研究より入るべく、而して本書はその指導者たるべし。

工學博士關口八重吉
特許局技師高島宗三 共著
機械工業要綱

菊列箱入
總クロス上製
定價三圓三錢
送料二十三錢

工業全般の智識を得んとせば先づ機械工業に就き研究するを要す。如何なる工業機械工業は各種の工業に共通の性質を有するもの位置にあれば工業の基礎たるは讀者の了解を容易ならしむる爲に複雑なる數理的説明を省き、多量の詳細なる説明圖を挿入す。

早稻田大學教授神尾錠吉 共著
大津博郎
珠算實用速算

菊列上製
總クロス
定價二圓八十錢
送料十八錢

珠算及暗算が如何にせば容易く巧妙に成り得るかの問題につき著者多年の経験に基き、最も進歩するなる方法を以て本書を成す。著者の實習例題多量に挿入せしむるは勿論、斯道にも亦切實なる特色の一也。故に入塾する者も、珠算の數科書として最も適當す。

天 地 書 房 發 行

最新教育書

吉良信之著
ダルトンプランの進歩と其適用

定價貳圓八拾錢
送料十八錢

東京女子高等師範學校教官 吉田 弘 著
各學年の理化教材詳說全參冊

定價貳圓八拾錢
送料十八錢

東京女子高等師範學校教官 芳澤喜久著
各學年の博物教材詳說全參冊

定價貳圓八拾錢
送料十八錢

東京女子高等師範學校教授兼教諭 文學士 古川竹二著
受驗準備期の心理試驗

定價壹圓
送料十三錢

天 地 書 房 發 行

學界最新の權威

文學博士補永茂助著
日本倫理思想の系統

菊判箱入
*ブリン美裝
定價圓八十錢
送料二十三錢

神道、武士道、儒教、獨立學派
心學派の六大系統に於て精緻な
史的討究を重ね、古今の代表的
人物を列擧し、一々彼等の論議
と言行とを詳細に説いて脈絡整
然たるもの也。

文學士岩橋導成著
東洋倫理思想概論

菊判箱入
*ブリン美裝
定價圓五十錢
送料二十三錢

饒近倫理學研究の傾向は儒教の
根本主義に近づき、老莊の思想
は泰西新道の社會革進家に鼓吹
せらるゝ時、本書は現代の國民
思潮と照合して深甚な考察をそ
ゝるであらう。

東京女子高等
師範學校教授
文學士土屋幸正著
倫理學原理

菊判箱入
*ブリン美裝
定價圓八十錢
送料二十五錢

道徳上の諸問題を透徹せる論旨
で飽くまで徹底的に取扱はれた
るもの、論斷の周到なる叙述
の如何にも適切よきとは他に比
を見ざる處也。

東京女子高等
師範學校教授
文學士土屋幸正著
行為の價値

菊判箱入
*ブリン美裝
定價圓九十錢
送料二十五錢

人生の價値、正邪善惡の由て分
るゝ根據、是實に倫理學の根本
問題也。本書は此問題に就て東
西大家の唱へし重要な學說を
悉く拉し求めて之を詳かにする
と同時に眞正適確なる批評を加
へ、最後に人物向上論を樹立す。

天 地 書 房 發 行

253
291

終

